

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8番9号		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの様々なイベントを準備し、散歩、ドライブ、保育園児の来訪やボランティアの導入、中庭でのバーベキュー、敬老会はホテルでの食事、余興等を行ない、家族、地域の方との交流を深め、楽しんで頂ける様 支援しています。個々のライフスタイルを尊重し、一人一人がご自分のペースで 安全に安心し、心豊かにお元気で楽しく生活して頂く事、生活に不安を持たれない様、見守り、ケア、お手伝いをさせて頂ける支援体制を作るために、カンファレンス、勉強会を重ね、スタッフ一同 ほう(報告) れん(連絡) そう(相談)を心がけ、連携のとれたケアができる様努力しています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600061&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年11月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム いすの木」は、近くに公園があり、市立病院の向かい側に位置しており、交通にも便利である。2階建ての2ユニットの屋内は中庭に面した回廊型の造りで、居間と食堂は独立して配置されている。共用空間は吹き抜けの中庭から光線が入り、全体的に明るい環境である。当事業所は開設4年を経過する中で、地域との関係作り、職員の質向上などをさらに取り組む姿勢で臨んでいる。2ヶ月ごとに運営推進会議を実施し、テーマに沿って内容も充実しており、家族の参加率も高い。災害対策に消防署と町内会の協力があり、避難訓練には住民の参加も得られている。利用者は町内会や地域のお祭りに参加し、近くにある保育園児との触れ合いを楽しみにしている。また、ボランティア訪問による催しのほかに散歩や外出行事にも付き添ってもらい、住民と交流する機会も多くなっている。管理者と職員は常に話し合い、業務や介護計画の提案を出し合い、改善に活かしている。笑顔のある温かい生活を提供するをモットーに職員は笑顔で対応し、家庭的な環境で利用者のはのんびりと過ごしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを考慮した理念を追加し、理念をふまえた介護支援をしている	開設時に作成した基本理念の3項目に「地域の皆さんと共に交流を深め楽しい毎日を支援します」という項目を追加し、その人にとって何が大切かを会議で話し合っている。また理念を記したカードを持ち歩きケアの中で確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの導入を多くし外部との交流をしている	町内会の行事や地域のお祭りに参加している。保育園児の訪問が月に2回あり、歌や踊りを披露してもらい交流を楽しんでいる。ボランティア訪問による催しの他、散歩、外出行事などもボランティアの方と一緒に出かけ住民と交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議で認知症についての勉強会を行なっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や運営推進会議で階部評価の結果報告をしており 意見等を頂いている	運営推進会議は年度中に6回開催予定である。災害対策、認知症、栄養などのテーマで関係機関の講師を招き勉強会を行っている。家族の参加率が高く、情報を交換する場にもなっており、会議を有効に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所、包括支援センター、町内会の方々に参加して頂いている	市の管理者会議の中で行政担当者と情報を交換している。介護福祉課の担当者は運営推進会議のメンバーになっており、会議案内を持参し関係作りに努めている。介護保険の更新時や生活保護などで各担当者に相談している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は出来るだけしない様対応しているが、夜間は夜勤者一人にて入眠時 安全保持の為ベッド柵使用している	身体拘束のマニュアルや拘束のチェックポイントを参考に管理者は職員を指導し、拘束につながる禁止語についても共有している。安全のため、夜間にベッド柵をする場合には家族の同意を得ている。玄関の内ドアにセンサーを取り付け、日中は玄関に鍵をかけないで見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にも参加し、ミーティング等で話し合いをしており 虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月勉強会を設けているので これからの勉強会のテーマに取り上げようと思っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には すべてを説明し理解して頂いています		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会等を開催し 利用者との会話や家族との関りで意見・要望を聞いたりくみ取りたり出来るだけ対応しています	運営推進会議の終了後、家族会を持ち意見を聞いているが、今のところ特に苦情などはない。家族の来訪時に直接意見を聞くようにしている。法人で年に1回、アンケートを実施しており、概ね満足との回答を得ている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常会話の中で意見を出し合い検討し向上させている	ミーティングやカンファレンスでは、職員の活発な意見交換の下に、業務の改善やケアの提案などを取り上げ意見を反映させている。職員から個人面談の申し出もある。管理者は職員の意見を聞くように努め、できるだけ希望に沿って勤務表も調整して働きやすいように配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消に努め、向上が図れるよう研修参加を促している。また、待遇面でも改善に努めるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て経験年数に見合った研修を受けさせるように計画している。市内に同一法人の事業所があり、合同研修を企画し実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や親睦会等へ参加させ交流できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に本人や家族の不安や要望の伺いをして</p> <p>いる</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人や家族と数回面談し関係づくりをして</p> <p>いる</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の要望を受け止め レベルに合わせた</p> <p>他のサービスを検討し提案している</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>声掛けや会話を多くし 本人の意思、人格を尊重し</p> <p>安心して暮して頂ける様対応している</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>体調異常時は家族に連絡や相談しており 定期受</p> <p>診は家族にお願いしているが 出来ない時は職員が受診介助している。又、いつでも面会できる様対応している</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>付き添い者のいる外出や馴染みの方の来設はい</p> <p>つでも受け入れしている</p>	<p>仲間による送り迎えがあり、以前からの集まりに参加して交流を楽しんでいる。職員の同行で買い物の帰りに前に住んでいた場所の庭を見て回り、また馴染みの美容室への送迎も行っている。友達の来訪時には温かく迎えて、これまでの関係を継続できるように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者のレベルにも依るが、出来るだけ誘い合い</p> <p>一緒に過ごす時間を持てるよう支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後 短期間の関りはあるが 時が経つと疎遠になっている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話やカンファレンスで 本人の意向をくみ取り検討している	家族からの情報やチェックシートで趣味や暮らしの情報を得ている。発語の難しい利用者には話しかけ、表情を見て、一緒になって考え、思いを職員で共有している。変化や意向などは経過記録に載せている。	状態の変化をアセスメントにも追加し、また職員の記録を活かしたモニタリング表の工夫で、介護計画を作り上げるような仕組みを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や日常会話の中で聞いたりしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意思、人格を尊重し マイペースな方の見守りや出来る範囲のお手伝いや活動をして頂いている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をふまえ スタッフの同意を得たケアプランを作成している	利用開始時にアセスメントや関係者の情報を基に、家族、利用者の希望も入れて介護計画を作成している。状態を毎月の経過記録に載せ、変化がない場合は3ヶ月ごとに見直している。見直しのカンファレンスで評価後、修正して更新計画を作成し、家族の同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のアセスメントシートと個々の情報の連絡ノートがあり職員間で共有し実践している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物等で 家族の都合が悪い時には 職員が代行して支援している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、行事、お祭りの参加等 外出する機会を多くもち楽しんで頂ける様支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族付き添いが基本にしているも 特変時や家族対応困難な時には職員が対応している	入居前のかかりつけ医を継続し、基本的には家族が同行している。受診時に情報を渡し、家族を介して結果をアセスメントシートや連絡帳に記録し情報を共有している。精神的な面での受診時には職員も同行して治療方針を家族と共有している。治療が必要な時は、歯科、皮膚科の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に定期訪問以外にも相談し助言を頂いている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には必ず面談し 医師や看護師より情報を頂き対応している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については入居時に説明しており 本人、家族の要望を重視し医療機関と共に支援している	入居時に重度化に伴う対応方針と看取りの対応について説明し、同意を得ている。終末期に医療処置が続く場合には、入院の方向となる。状態の変化に応じて家族、主治医と方針を話し合い、その内容を経過記録に載せている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の心肺蘇生研修を2～3年毎に行なっている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防火非難訓練を実施し 地域の方の参加を得ています	消防署協力の下で、夜間を想定して年に2回、火災避難訓練を実施している。住民には玄関内で待機してもらい、利用者を誘導しながらの見守りを依頼している。運営推進会議で反省会を持ち、評価や助言をもらっている。災害時の備品などを用意している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いすの木理念に沿って対応している	理念に「意思・人格の尊重」を上げ重視している。呼びかけ時の「さん」付け、「ちゃん」付けについては、再確認が必要と感じられる。記録などは事務所に安全に保管している。	利用者呼びかけ時の呼称について、利用者や家族から見て今の呼称で納得されているのが再確認されるよう期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で思いや希望を聞いたり 思いをくみ取っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いや強制的な行為はなく、本人の意思を確認し促している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの服を着用されており、化粧品や装飾品等を持たれている方もいます。又、毎月メイクボランティアを利用し喜ばれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取りをして頂いたり、肉の嫌いな方には別の食物を提供しており 下膳の出来る方には行なっている	静かな音楽をかけ、利用者と職員が会話しながら楽しく同じ食事を摂っている。もやしのひげ取り、いもの皮むき、下膳など利用者にしてできることを手伝ってもらっている。また、希望に沿ってメニューの変更も行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量のチェックや病状や好みに合わせて提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方はご自分で行ない、出来ない方には声掛けや指示・介助している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレ誘導しており 夜間歩行可能な方は声掛けしトイレ誘導している	生活アセスメントシートにて排泄時間などを記録し、パターンを把握して適切に誘導している。誘導する際は、恥ずかしくないようさり気なく声かけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゼリー・アイス等の水分を多く促し 4～5日以上の方には下剤を与薬している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ 入浴して頂いている	日曜以外は毎日入浴可能で、各利用者が週2～3回程度入浴している。拒否がある場合は、時間をずらしたり、翌日にするなどの対応をしている。浴槽は両側から入ることができるよう便利に造られている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ 対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の確認に努力しており 一人一人の服薬に注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたお手伝いや お好きな事への配慮をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望には出来るだけ対応しており 日常の買い物に同行して頂いたり ボランティアのある時は天候をみて散歩にでている	事業所の周辺や買い物などで頻繁に外出している。週に1度程度、ボランティアの方が来て外出を手伝ってくれている。行事では、花見やドライブ、冬のイルミネーション見学などで外出を楽しんでいる。畑仕事や中庭での外気浴も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者同士のお金のトラブルの可能性があり 紛失しても問題ない金額をお持ちの方もおられ 自由に使用できる状況である		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はいつでも使用することが出来ることを伝えており 外から来た時は取り次いでいる		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の食堂・談話室・廊下には季節に合わせ 入居者様と飾りつけをしている	中庭を中心に共用空間や居室が配置され、窓が多いため明るく、床暖房やエアコンが完備され快適である。季節の飾り物や人形、カラオケ、遊び道具などが置かれ、安心して過ごせる場所となっている。居間のソファは大きくゆったりと座ることができる。トイレや浴室も使いやすく造られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋は個室であり 和室や談話室もありお好きな所で過ごされており 又 居室の行き来をされている方もいます		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室は 本人や家族が荷物の持ち込みをされ配置されている	居室には利用者が自由に戸棚やテレビ、家族の写真など馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーなど利用者が自由に飾り付けをすることができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺があちこちに付いており 居室の近くにトイレ・洗面所があり自主的な行動が安全に行なえていると思う		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グル-プホーム いすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8番9号		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人一人のペースにあわせ健康で楽しく生活できるように支援している</p> <p>家族、職員、入居者が、いつでも話し合いが出来るような、家庭的な雰囲気を大切にしている</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193600061&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で、地域とより深く繋がる理念を追加する		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おまつりに参加したり、保育園児との交流を持ったり、推進会議に出席していただき交流を深めている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会館に、パンフレットを置いたりする。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況等を報告し意見を頂いている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしないため、見守りを常にしている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、GH内での勉強会を、行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用すべき入居者が居ないため活用されていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いる、疑問点など日頃家族の意見を聞きこたえるようにしている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議等で家族の意見を聞きとりいれる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議、勉強会など、意見、提案をきいている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消に努め、向上が図れるよう研修参加を促している。また、待遇面でも改善に努めるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て経験年数に見合った研修を受けさせるように計画している。市内に同一法人の事業所があり、合同研修を企画し実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や親睦会等へ参加させ交流できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前入居時本人の話聞き施設の説明をする		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前入居時本人の話聞き施設の説明をする		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	勤めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、リネン交換、日常の家事を職員と共に行う		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と、十分に話し合い本人を支える様にしている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と近くの店に買い物に行ったりするなど		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流できるようリビングでテレビを見たりそとで、園芸活動、散歩を出来るようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	勤めている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	勤めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、本人の話をきく		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で変化に気づけるように入居者と、共に過ごす様にする		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議、日々話し合いのなかで、意見交換をしている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、アセスメント、連絡ノートの記載		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と共に受診し状態を報告したり書面で報せたりし、適切な医療が受けられるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時、家族と共に付き添ったり、書面で日頃の様子を知らせたり、電話で相談したり支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のワカーさん、看護師、医者等と話し合い退院できるようにしている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と十分に話し合い重度化した時の方針をとっている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身に付けている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などに地域の参加をお願いしている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに充分注意している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話し合いを、充分にしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを十分に配慮した生活		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋を1ヶ月～2ヶ月おきぐらいにかかれるようにしたりする、洋服などにも気を使うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と食事の下準備をしたり、後かたづけをしたりしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が希望する限りトイレ介助したり日中布のパンツにしたり声掛けしたりしてつとめている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる(水分の摂取、運動)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそう入浴、体調に合わせている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認につとめ、量を記載している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑を作ったり、リビングで植物を育てたりし、おやつを買いにでかけたり、気分転換をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気などを、見て出かけたりにしている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と近くの店に買い物に行ったりする		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いる		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に、季節の花を置いたり、リビングで、植物の栽培をしたりしている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂などで思い思いの過ごし方できるようにしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族本人と話し合いながら必要な物を置く様にしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの力に合わせた活動を、日々の中に取り入れている		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	状態の変化をアセスメントにも追加し、職員の記録を活かしたモニタリング表が、不明確であり介護計画に活かされていない	個人票、ケアプラン、支援記録などを一つにまとめる	分けてあった書類をひとつにまとめる	3ヶ月
2	36	利用者の呼び方は今のままで良いのか	その人にあう呼び方をする	家族からの聞きとりや、日々の会話から個人、個人の意向を聞き改善していく 職員の意識の改善を図る	2ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。